

①朝活！カフェプロジェクト

■プロジェクト概要

地域に誰もが参加できる、一緒に朝ごはんを作ったり食べたりする場と体験・学び・交流の場を創る。

■目指す姿

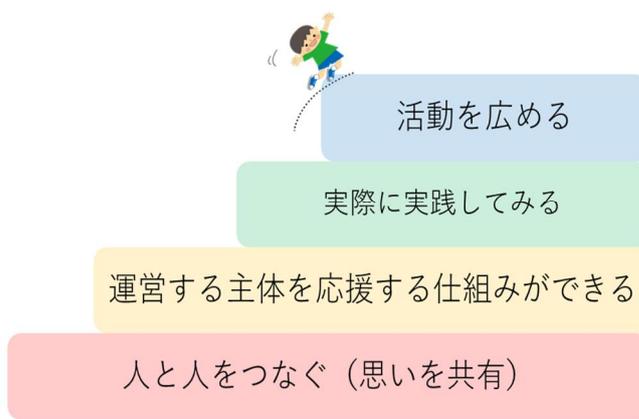
- ・地域の中に共食や交流の場がたくさんある。
- ・楽しく朝ごはんを食べることができるようになる。

■実現までの課題とチャレンジ一例

【課題】	【解決策】
・人材確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成講座 ・多様な主体からの参画 ・学生などの次世代人材の参画
・財源確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングの活用 ・企業からの出資
・情報発信が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー掲示板などの活用 ・参加しやすい開催場所の工夫
・食と異業種体験の連携体制づくりが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内コーディネーターの育成
・ライフスタイルなどによって朝ごはんを作ることが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・時短レシピなどの情報提供 ・調理体験の企画 ・共食できるイベント企画や拠点づくり



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
■こども食堂の広がり <ul style="list-style-type: none"> ・日詰地区社協と町社協が日詰公民館で実施 ・新たな活動実施主体(co place)の誕生 ・朝カレー提供イベント (8/19) ・地域の企業や農協青年部から食材等の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の周知(補助金情報、開催情報) ・支援者と活動実践者を繋ぐ仕組み ・こども食堂の企画コーディネート
■紫波総合高校生と地域の共食の場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ワンデイシェフレストランの実施 (12/8) ・食文化学習の協力者との交流の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・採算の合う事業計画 ・食品衛生法などの法令関係の手続き
■調理体験の企画 <ul style="list-style-type: none"> ・透明の鍋を使った炊飯実演と併せて、子どもが自分でおにぎりを握って食べる実体験を企画・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・採算の合う事業計画 ・実施主体の連携

②野菜POPコンクールプロジェクト

■プロジェクト概要

子どもたちが作った野菜の絵や紹介文を産直に展示して産直への回遊を促す。

■目指す姿

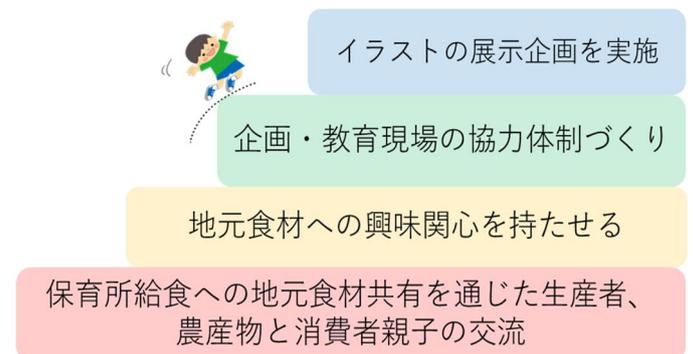
- ・子どもたちが“楽しく”野菜に触れている。
- ・産直が地産地消の拠点として機能している。

■実現までの課題とチャレンジ例

【課題】	【解決策】
・野菜嫌いな子どもたちが多い	・野菜と一緒に食べる体験 ・イラストなどで触れる機会
・学校現場の協力体制づくり	・図書館や公民館との連携 ・モデル校との事業展開
・産直との連携体制づくり	・生産者との連携 ・モデル産直との事業展開
・農業と子どもたちが触れ合う機会が少ない	・授業や体験の機会づくり ・生産者との交流



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
■紫波町産業まつり (10/14、15) ・野菜に触って、体験できるワークショップを企画	
■保育園の食・農の学習 ・給食に提供する食材の展示・紹介や生産者との交流 ・地産地消メニュー・生産者の紹介 ・保育園等における農業体験の充実化 ・町内保育所と連携し、園児が描いた絵を町内産直に掲示し、子育て世代の産直への回遊を図る事業を計画	・食材供給生産者の開拓 ・農業体験の継続実施 ・年度当初から事業計画化 ・食材提供をしていない産直の意識
■小学校の食・農の学習 ・古館小学校で、生産者による出前授業 (11/14) →岩手中央農協養豚専門部会から寄贈された豚肉を使用した特別給食を味わう ・日詰小学校のわんぱくまつりで、農政課による出前講座 (11/15) →学習内容を学校給食で提供・振り返り	
■中学校の食・農の学習 ・盛岡駅、盛岡肴町で、紫波第一中学校1学年生徒による紫波一マルシェを開催 (10/30) →事前学習で特産品など魅力発信のため調査・研究	

③食材セット産直販売プロジェクト

■プロジェクト概要

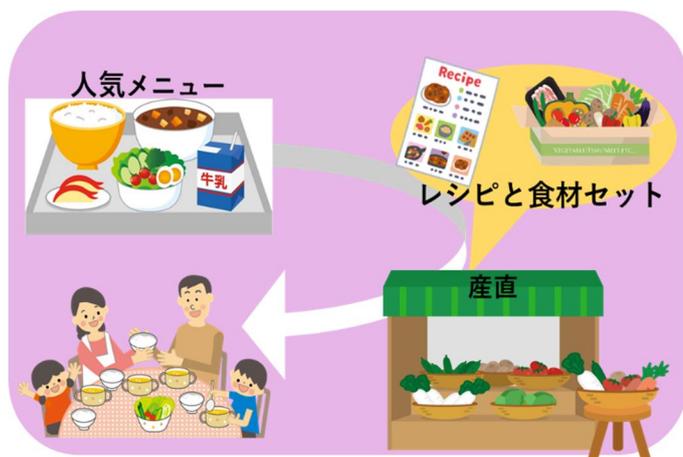
給食メニュー等のレシピと食材セットを販売し、家庭のメニューに活かす。

■目指す姿

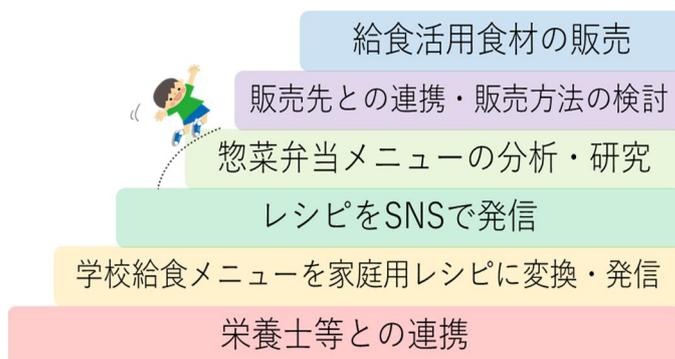
- ・家庭の食を応援する情報や販売形態が充実している。

■実現までの課題とチャレンジ例

【課題】	【解決策】
・家庭用レシピの作成	・栄養教諭との協力 ・栄養士等との連携
・販売先との連携	・スーパー、産直との連携
・認知度向上	・情報発信 ・子育て世代への発信



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
■学校給食での取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の人気レシピ公開 ・学校給食での地産地消 ・食材・生産者を SNS で紹介 ・学校給食で活用している食材の産直販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・提供レシピ数の拡大 ・情報発信手法の検討 ・発信人材の確保/育成 ・生産者の開拓 ・認知度向上
■盛岡大学と連携した活動 <ul style="list-style-type: none"> ・あぐりちゃやの惣菜・弁当メニュー分析・検討等 ・スポーツ関係者への栄養指導・講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する食材が季節により変動する ・スポーツ関係者との機会創出・企画

④食育読書祭プロジェクト

■プロジェクト概要

食育と連動した読み聞かせの充実を図る。

■目指す姿

- ・読み聞かせを通じて、子どもたちに様々な食に関する知識を伝えることができる。
- ・読み聞かせボランティアが増え、様々な場で活躍している。

■実現までの課題とチャレンジ例

【課題】	【解決策】
・読み聞かせボランティアが少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書ボランティアとの連携 ・活動周知による発掘 ・学生ボランティアの募集
・読み聞かせをできる機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業との連携 ・保育所・学校との連携 ・イベントへの連携・出店 ・図書館との連携
・読み聞かせと実体験のコラボが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター育成

【プロジェクトのステップアップ】



本の世界を実体験する

図書館と連携して関連する本を選定

図書ボランティアによる
関連する本の読み聞かせを実施

読み聞かせと連動させる事業を検討・企画

【地域の動き】	【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ・日詰のクラフトマーケットで食育講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のさらなる展開
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館との連携事業を協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の検討 (書籍種類が多いため、連携する事業の決定を優先) ・事業主体の不在

⑤野菜いっぱいプロジェクト

■プロジェクト概要

種まき、栽培、収穫、販売の一連の体験を通じて地域に多様な交流の場を創る。

■目指す姿

- ・栽培から販売までを体験できている環境がある。
- ・農業を通じて地域に交流の輪が広がっている。

■実現までの課題とチャレンジャー例

【課題】	【解決策】
・栽培技術がない	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業者とのつながり ・農業体験の充実 ・図書館の活用
・栽培できる畑がない	<ul style="list-style-type: none"> ・人農地プランの実質化 ・体験農園の拡充
・農産物の販売方法がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・給食や老人施設、こども食堂への提供 ・朝市や産直への出店
・人を巻き込むことが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・ツーリズム体験との連携 ・保育所や公民館との連携 ・コーディネーター育成

【プロジェクトのステップアップ】



- 農作物を地域保育所に寄付したり朝市に参加して販売
- 農地で年間を通じた栽培体験を企画・実施
- 交流イベントを合わせて企画・実施
- 単発の農業体験の機会を創出

【地域の動き】	【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ■放課後児童クラブの食・農の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・古館地区のこどもの家（古館ヤンチャークラブ）での農業体験と調理実習の事業継続中 ・みちくさ学童クラブ、片寄こどもの家で調理体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営の企画・コーディネーターの確保・育成 ・事業運営資金の確保 ・継続できる仕組み構築
<ul style="list-style-type: none"> ■民間、団体による農業体験イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・もち小麦消費者交流会による「もち姫」の播種から栽培、収穫、調理体験 ・ツーリズム協議会による農業体験プログラム ・紫波フルーツパークによるワインオーナー交流会、農業機械体験会 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信 ・参加者が少ないことが多い
<ul style="list-style-type: none"> ■岩手大学クラフトビール部の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ビール麦の県産化を目指す「つなぐビールプロジェクト」を立ち上げ、町内で栽培開始、販売も予定。 	

⑥農家と事業者をつなぐプロジェクト

■プロジェクト概要

生産者と消費者をつなぐ仕組みづくりを行う。

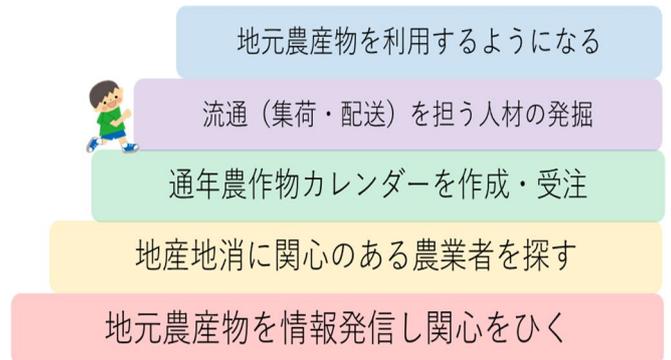
■目指す姿

- ・飲食店や保育所で地元食材が活用されている。
- ・“顔が見える”生産者とのつながりがある。

■実現までの課題とチャレンジ一例

【課題】	【解決策】
<ul style="list-style-type: none"> ・農業者とのつながりがなく、どうすれば地元食材を安定的に購入できるか分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者情報の発信 ・マッチング機能の確保・育成 ・生産調整と安定した出口の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・地元で食べて欲しい一方、少量注文に個別にすることは手間が継続が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の受発注システムの導入 ・拠点集荷による配送負担の軽減
<ul style="list-style-type: none"> ・町内流通（集荷・配達）が確立していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・物流拠点の整備 ・集荷・配送の仕組み化（稼ぐ仕組み）
<ul style="list-style-type: none"> ・通年での安定供給が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場の理解 ・加工と保存体制の構築（カット・冷凍等）

【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ・任意団体による食材仲介事業が開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者による配送負担 ・生産者・購入者の開拓 ・仲介事業の採算性の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設での地元農産物の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者による配送の負担 ・配送費用設定
<ul style="list-style-type: none"> ・生産者情報の発信（JA、町の広報等） 	

⑦紫波町のセントラルキッチンプロジェクト

■プロジェクト概要

町内にセントラルキッチンを整備し、カット・冷凍などの加工をすることで販路の幅を広める。

■目指す姿

- ・町内農産物加工により販路が広がっている。
- ・生産者が安心して生産できる仕組みがある。

■実現までの課題とチャレンジ例

【課題】	【解決策】
・初期投資の確保	・制度設計が必要 ・補助金等の活用
・運営主体の確保・育成	・仕組み構築によって民間の参画
・農業生産基盤の確保	・担い手確保・機械化による生産性向上
・加工品の出口確保	・物流アドバイザーの登用

【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
・町内の加工事業者で学校給食納入食材の一次加工	・物量の確保 ・衛生管理・HACCP対応の徹底
・町外加工事業者と連携し、町内産品の加工、商品開発を実施	・加工・保管・ピッキング・発送分野のビジネスチャンスが町外に流出
・新学校給食センター遊休時間活用の可能性検討	・学校給食の提供を阻害しないこと。 ・旬の農産物のレトルトや冷凍、水煮等の加工品ニーズの把握。

⑧コミュニティナース*農業体験農園プロジェクト

■プロジェクト概要

農業体験農園とコミュニティナースが連携し、地域に農と健康の拠点を創る。

■目指す姿

- ・多様な主体が農の現場で活躍する。
- ・居場所があることで健康寿命が延びる。

■実現までの課題とチャレンジ例

【課題】	【解決策】
・農業者が高齢化している	・農業サポーターの活用 ・体験・交流から就農へ
・休耕地がたくさんある	・移住勧誘 ・農地の多様な活用の提案
・農業技術がナースにない	・農業者との連携
・体験農園を運営する人材がない	・農業サポーターの活用

【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
・農地面積、関係者を巻き込みながら体験農園の継続実施	・運営主体、農地法等の課題の整理 ・人材の確保 ・採算性の確保
・体験農園で収穫した野菜を使った料理教室の開催	